

梅津新聞

(近世編⑥)

2021年

1月29日 金曜日

 常陸太田市郷土資料館
 (西二町 2186)
 TEL:0294-72-3201

9代藩主斉昭が水戸藩を治めていた

日本中を巻き込む大混乱

幕末の水戸藩①

頃、日本は時代の変わり目を迎えていた。そしてそこには、水戸藩が大きく関わっていたのです。

忍び寄る、外国の影…

水戸藩8代藩主斉脩の頃、長年鎖国を続けていた日本に、外国の船が相次いで来航し開国を迫ってきました。ヨーロッパ諸国とアメリカが、アジアに進出したためです。この時日本国内は、自然災害による凶作や飢饉、貧富の格差拡大による治安の悪化など、不安定な状況でした。そんな中、江戸幕府は相次ぐ外国船来航の不安を除くため、文政8年(1825)、「異国船打払令」を出しました。

水戸藩領内では同7年、北茨城市大津浜にイギリスの捕鯨船が上陸し、大騒ぎになりました。この時イギリス人やりとりをするため筆談役として派遣されたのが会沢正志斎です。会沢は外国

 水戸藩を学ぶ前の基礎知識
 鎖国

江戸時代初め、幕府は、周辺の国やヨーロッパ諸国と積極的に貿易をしていました。それに伴い、国内にキリスト教が広まっています。

しかしキリスト教は幕府のしくみに合わず、信者が団結して暴動を起こす恐れがあったため、幕府は貿易の相手をオランダと中国に限定し、日本人が外国に渡るのを禁止する「鎖国」を始めます。貿易は長崎に造られた人工島「出島」でのみ行われていました。



キリスト教はダメ！

ゴゴゴ

幕府と朝廷

古代から、日本では天皇が政治の中心でした。天皇を中心に皇族や貴族が政治を行うしくみを「朝廷」といいます。しかし平安時代後期になると、武士が勢力を伸ばしてきます。武士が政治を行うしくみを「幕府」といい、朝廷から征夷大將軍という役職を任命された武士が、幕府を開くことができます。

政治の中心が武士に移ったとは

いえ、朝廷の勢力がなくなったわけではありません。しかし江戸幕府は「禁中並公家※1諸法度」を出して天皇や貴族たちの行動を制限したり、「京都所司代」という役職をつくって朝廷の動きを厳しく監視したりしていました。

※1 公家…朝廷に仕える貴族



武士(幕府)

貴族(朝廷)

水戸藩を学ぶ前の基礎知識

尊王攘夷論

幕末におこった2つの思想のことです。

尊王論…王(天皇)を敬うべき

攘夷論…敵(外国人)を追いつぶすべき

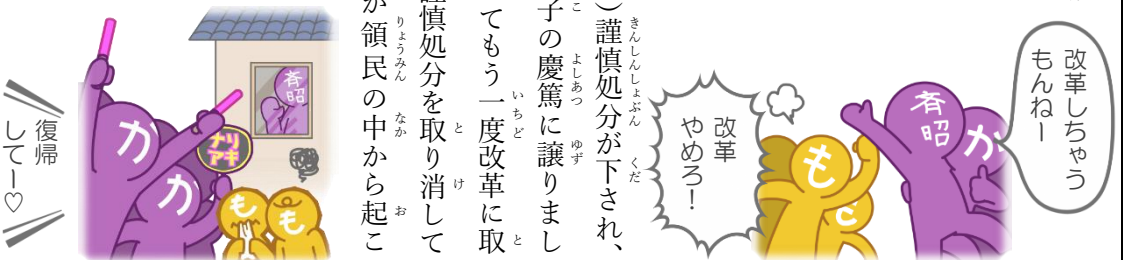
の国々がアジアに進出している現状に危機感を覚え、翌年『新論』を執筆しました。これは「外国船襲来に備えた防衛を強化すべし、戦いへの備えを充実させることで国の威力を外国にアピールできる」という内容で、これを読んだ斉脩はその目のつけどころに感心する一方、幕府の批判を含んでいたことから、世に出さず秘密にすることを決めました。しかし写本（コピー本）や類似本などが発行され、このことが藩を越えて尊王攘夷思想が広まるきっかけとなりました。



2つの派閥、深まる溝

文政12年（1829）斉昭が9代藩主になったとき、藩内には2つの派閥がありました。ひとつは改革を進めるべきだとする「改革派（天狗）」、もうひとつは改革を良しとしない「門閥派」です。改革派の斉昭は門閥派を抑えるため、役職を与えて近くに置きました。しかし

昭の改革は近世編⑤で紹介したような厳しいものばかりで、結果、領内から強い抵抗を受けたり幕府の制度や法令に触れていたりしたことから、弘化元年（1844）謹慎処分が下され、斉昭は藩主の座を子の慶篤に譲りました。この時、復帰してもう一度改革に取り組んでほしい、謹慎処分を取り消してほしいという運動が領民の中から起り、広がっていきま



ついに開国!

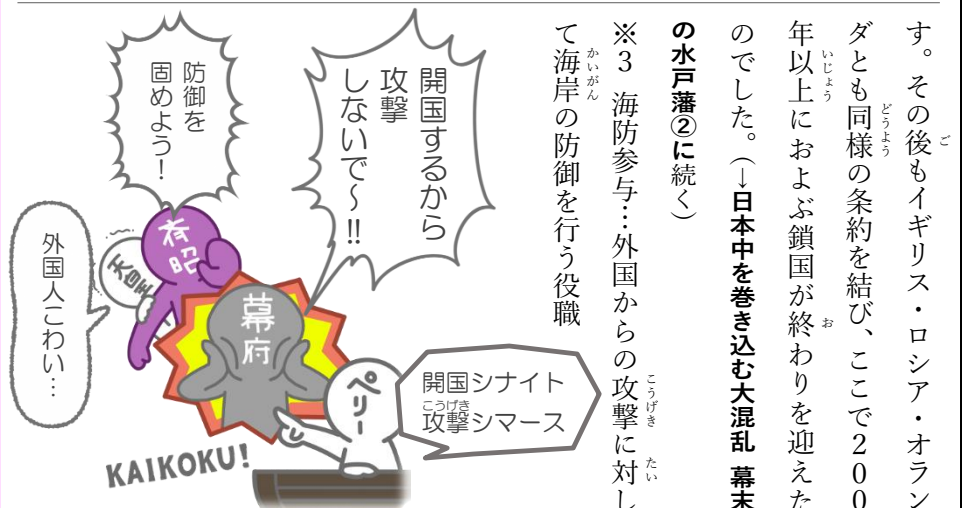
天保13年（1842）、古代から手本としてきた中国（当時清）が、戦争でイギリスに敗れたというニュースが飛

び込んできました（アヘン戦争）。不安定な国内情勢、度重なる外国船の来航、そしてイギリスをはじめとするヨーロッパ諸国の脅威…。不安は幕府への不満となり、次第に国民の間で尊王攘夷論が広がっていきました。

嘉永5年（1853）、アメリカの使者ペリーが神奈川県浦賀に来航し、日本に強く開国を迫りました。いわゆる「黒船来航」です。返事は翌年として一時帰らせ、水戸藩で謹慎処分を受けていた斉昭を幕府の海防参与※3に抜擢します。斉昭は水戸藩から大砲74門を献上、国の防衛を固めるべきと意見しました。しかし幕府は翌年、再び来航したアメリカと日米和親条約を結びま

このとき、常陸太田では…

斉昭が行なった改革のひとつに「追鳥狩」があります。軍事強化を目的に、山野の鳥や獣を敵軍に見立てて狩りをしました。領内各地で天保11年（1840）から安政5年（1858）の間に9回行われ、多くの藩士や農民、神官などが参加したと言われています。また、同じく軍事強化の一環としてさまざまな武器も造られました。太田村（常陸太田市）では、天保7年から製造が始まり、その材料として領内のお寺の銅鐘や銅仏を差し出して天保13年に完成しました。



※3 海防参与：外国からの攻撃に対して海岸の防衛を行う役職

開国シナイト 攻撃シマース

KAIKOKU!